

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
ものづくり産業	蓄電やエネルギー製造装置の産業誘致により、新エネルギーの発信拠点として、特区を申請してはどうか。	諏訪
	航空機の資材や超電導技術の開発など先進的な取組を行っている中小企業も多い。海外進出でなく、国内にいかに残せるかということを視野に入れた産業施策が必要	諏訪
	人工臓器や医療機器等のヘルス分野へ生産の転換を図る中小企業が増えている。新産業育成の重点化をお願いしたい。	諏訪
	諏訪圏工業メッセの参加企業が県内に広がっている。県レベルの事業としての位置づけをお願いしたい。	諏訪
	産業基盤づくりというのは人が行うもので、その基盤づくりを行える人材をどうやって確保するか、そこがポイントとなるので、産業基盤づくりと人材育成は密接につなげて考えた方が良い。	上伊那
	策定中の長野県ものづくり産業振興戦略プランを着実に進めるべき。中でも、健康、医療、環境、自然エネルギー等の分野への支援を強力に行って欲しい。	松本
	環境分野、医療・健康・福祉等を中心とした知識集約型産業の振興に取り組んで欲しい。	松本
	ものづくりをベースにした地域ブランドとして、特色ある製品、商品、イベント等の開発・充実に取り組んで欲しい。	松本
	京浜、中京、東海など工業地帯との関係を強化し、県はパイプ役となって欲しい。企業のマッチング、中央情報を地元へつなぐために、県の役割を強化することが必要	大北
	円高が続いており中小企業の海外シフトが進んでいる。諏訪地域は業種が似通っている。関連業種を中心に、内需に向けた企業誘致を進めて欲しい。	諏訪
	企業誘致に当たっては、リニア中央新幹線も開通することから、製造業の下請けでなく、研究、開発部門等に特化してはどうか。特に食品製造業が多いことから食品会社や大学の研究所といった頭脳集団を誘致してはどうか。	飯伊
	電気自動車の構造を知るために、電気自動車を分解し、部品製造の企業が、自らの技術がどの分野で携われるかつかむ機会を作って欲しい。	佐久
	企業間連携は、県の枠組みを超えた取組が必要	諏訪
	中小企業が国内で生き残る視点で物事を考えていかななくてはいけない。そのためのアドバイスが必要	飯伊
	法人企業の80～90%が赤字経営と言われている中で、地元商工業の実態をしっかりと捉えて、将来につながる経営を応援し、個々企業が頑張れる施策を打ち出すことが必要	大北
	県全体では多様な地域があり、それぞれの地域の個性を活かした政策が行われることが望ましい。県としては地域単位でやりきれない、例えば、研究・開発支援のようなものに取り組んで欲しい。	大北
	企業の弱体化と雇用機会の減少、若者の地方離れを少しでも解消するため、マネジメントができ、利益が出せる企業経営者の育成が必要。そのためには地域で経営者を育てる仕組みが必要	飯伊
	ブランド商品(完成品)を持つ企業は、技術・機能・デザインの開発に一層力を注ぎ、他社よりも優位性を持つことが必要	長野
	下請加工の企業は提案営業に磨きをかけ、大企業からの「共同受注システム」を確立することが有効	長野
	後継者離れや若者の雇用機会の減少等に対応し、産業の後継者育成や創業者への支援を拡充することが必要	長野
産学官連携による次世代の人材育成や研究開発、設備投資に向けた助成金制度など、中小企業の支援が必要	長野	
観光	観光の差別化のポイントはおもてなしの心	上小
	地域に対する観光客の興味を引き出すためにも、ホスピタリティが重要である。	諏訪

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
観光	長野県の観光の最大の魅力は、この地に暮らす人が日々幸せであり、そこを訪れた人が、その幸せのおすそ分けをもらうこと。これからはそういうタイプの観光を目指していく必要がある。	大北
	外部の人の方が地域の魅力や良さを知っている場合が多いので、外部の人の意見・提言を取り入れる手段を確立できるよう県にサポートして頂きたい。	木曾
	スキー産業の低迷は、サービス業としての認識の遅れが原因。索道事業だけでなく関係事業者全体のレベルを上げなければ、埋没してしまう。	上小
	スキー場毎の特徴に応じた、きめ細かい、ニーズに合った観光施策を地域と連携しながら進めて欲しい。	北信
	スキー客の低迷に対し、回復に向けて県を挙げて取り組んで欲しい。	諏訪
	観光について、高原鉄道構想など全国一律でない夢のある独自のものを考えていくべき。	諏訪
	県境にあることの特殊性を有利に活かすべきである。	木曾
	長野県は臨海地域に比べ食の魅力が乏しい。今後どのように取組を進めていくかが課題	諏訪
	農業だけでなく食と連携し、地域の観光の柱にすえられるようにしたい。	上小
	首都圏の人に聞くと、長野県は総じて食べ物おいしいと思っただけなので、観光の売り方として、長野県産の食材や自然環境が豊富なことを活かすことはできないか。	大北
	リニア中央新幹線の開通を見据え、今ある地域の素材を磨き上げ、新しい価値として外部に提示していく必要がある。	飯伊
	地域の資源を地域の人が消費するということが大切である。	佐久
	観光は経済的波及効果が高く、地域の産業と連携して地域産業を活性化させる一面があることから引き続き観光に力を入れて欲しい。	北信
	商工業や標高差を活かした農業などの産業や人間ドック等の保健医療と連携した観光に取り組み、海外も含め広く情報発信すべき。	諏訪
	温泉や八ヶ岳の漢方薬を利用した薬膳料理等地域の資源を具体的に調査しながら、長期滞在型の観光地となるよう施策に取り組んで欲しい。	諏訪
	長野県は自然が豊富すぎて、無料でいつも享受できるので、黙っていても観光客に来てもらえるのではないかと考えるかもしれない。観光としての売り方も、雄大な山を見せるばかりでなく、地域にあるお寺などを観光ルートに乗せていくような、再発見も必要ではないか。	大北
	地域全体の観光資源の活用方法について、県が中心となって戦略を考え、指導して欲しい。	諏訪
	産学官協働による滞在型観光を進めることが急務である。	諏訪
	東京都心では日常味わえない非日常体験ができることが観光のポイント	上小
	全国的には、休日の料金を平日並みに安くすることで観光客が増えているところもある。このような視点も必要	諏訪
選択と集中、客の視点をキーワードとし、地域にあった方針をたててやっていると主体性がなくなる。個性を大事にしながら地域の良さを伸ばしていくべき。	上小	
観光地の評判を広める方法として、女性の口コミの効果は大きい。売り手のみで考えるのではなく、消費者の声を聞くことが大切。特に女性の声を多く取り入れて欲しい。	諏訪	
観光の戦略・政策を考える場合、コンサルや学者等の意見ではなく、観光に自分の生活を置きながら、試行錯誤している人たちの意見、見識をもう少し表に出していく必要があるのでは。	飯伊	
観光を振興するためには、視野が広い、地域の枠に囚われない、長期的なビジョンがもてる等を有したプロフェッショナルの育成が必要	飯伊	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
観光	観光客を消費者に変えていく工夫が必要。そのために、今までのような縦割りの組織だけでなく、お互いにお互いのパワーを使える仕組みを作っていくことが必要	飯伊
	長野県の長期的な観光ビジョンが欲しい。そのビジョンに沿って各組織が連動し、一つの事業を行うことができるようにすることが必要であり、その為には組織の垣根を取り払うことも必要	大北
	観光事業を総合的に見ることが出来る部署や人材が必要であり、各分野の垣根を取り払うことが重要。同じことを違う組織で行っていることが多すぎる。	大北
	震災後外国人観光客が減っている。メディカルツーリズム、ものづくり観光、単なる語学だけに止まらないインタープリターの養成、インターンシップの場の提供等の教育旅行等、客さえ来てくれればよいのではなく、どういう客に来てもらうかという新たな視点が必要	諏訪
	北陸新幹線延伸に伴い、飯山駅から志賀高原等への2次交通をどうするかインバウンドでも重要である。	北信
	市町村、民間と連携したインバウンドの整備に取り組むべき。	松本
	観光客の広域的な誘客に繋げるべく、スクリーンツーリズム(※映画のロケ地等への誘客)、スポーツツーリズムを新しい観光の柱として位置付けて欲しい。	松本
	大河ドラマ等への義仲の活用を力を入れて頂きたい。	木曾
	長野県を超えて、日本の国土軸の中で、観光をどう捉えるかということが必要である。	北信
	観光パンフレットを6市町村ごとに作成しているが、内容が重複しており経費の無駄遣いである。観光の目玉となるものを中心に統一的に取り組むべき。	諏訪
	広域観光を推進しようとしても、自治体間の壁がある。こうした意識を変えることが必要である。	北信
	広域連合を活用して観光とエネルギー活用の問題に取り組むべきである。	北信
	長野市以北の観光圏が設立されたが、こういう観光圏と県が連携していくことが必要である。	北信
	観光については、広域的に取り組むべきものと各地域で取り組むものとの分野を分ける必要がある。	諏訪
	広域観光に重要な地域連携において必要となる道路等の環境整備をスピード感を持ってやって欲しい。	上小
	インバウンドを推進する必要がある。	上小
	海外からの誘客を促進するためのキャラバン隊の現地への派遣が必要	大北
	治安の良さや美しい自然が豊かというイメージを更に発信して、地方都市であっても世界から観光客を呼ぶという認識で取り組むことが必要である。	北信
	今ある資源に付加価値をつけて情報発信すること。	上小
	観光振興を目的とした物産展への出展の誘いも多いが、イベントにおけるPRは一過性であり、効果が薄い。特産物を安定的・長期的に販売できる常設の場を確保して頂きたい。	木曾
長野五輪以降、大きなイベントがなく、インパクトの強い効果的な「信州キャンペーン」が企画・展開されていない。魅力を発信し共感を得る「コーポレート・アイデンティティ」を強力に進めて欲しい。	大北	
フィルムコミッションへの積極的な支援を行うべき。	松本	
観光立国を目指す上で、各地域が果たせる役割と経済効果を認識する取り組みが必要	長野	
広域連携により、新幹線と在来線の相互利用を誘発するような観光戦略が必要	長野	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
観光	オリンピック記念マラソンなど、観光とスポーツイベントのマッチングにより、ビジネスチャンス を拡充することが必要	長野
	インバウンドを含めた交流人口の増加と、そこから得る経済効果をどのように高めるかが課 題	長野
	長野県は首都圏から比較的近く観光資源にも優れており、地域のポテンシャルは高いが、長 野らしさが希薄であり、誘致に向けたPRも不足している。また、インバウンドへの対応も遅れ ている。	長野
	2014年度長野新幹線金沢延伸時に、全国的なイベントが検討されていない。県内各地のス イーツイベント等と連携し、女性や中高年を対象に「信州スイーツ博」を開催してはどうか。	長野
	特産物の売上向上に向けて、専門家を含め、積極的なPRと購買力を高める方策の検討を行 う。	長野
農業	いかに就農者を育てていくかを考えなければならない。就農者を探し出すのも一つの方法だ が、地域内で探すのには限界がある。UターンやIターンの受入窓口を整備することが必要で ある。就農希望者との1対1での対応では、安定して就農者を確保することではできない。	木曽
	地域環境を守る農業に対し、農業後継者育成、UIターン事業の推進などの支援をされた い。	飯伊
	農業の後継者不足について、定年期のUターンを支援し、地域農業を支えていくことが必要で ある。	北信
	最近是不景気なので農業をやりたい若者が結構いるが、どうすればいいかわからないとい う若者が多い。農業改良普及センターや農協などに協力して頂いて、どうすれば農業を始めら れるか、また、続けていける農業を丁寧に指導して頂きたい。	大北
	5年間で、就農あるいは漁業に従事する人達へ地域の技術を伝承し、人づくりを行わないと産 業が育ってこない。人材育成というものが大変重要なので、計画の中に入れていったらどう か。	上伊那
	就農については深刻な状況であり、就農しても生業(なりわい)としてやっていけないというこ ろもあるので、生業として成り立つような環境づくりと人材の育成をお願いしたい。	上伊那
	経営感覚を身に付けた農業経営者の育成が必要	飯伊
	農地の持つ多面的機能の重要性を認識し、生産・流通・消費者が価値観を共有しながら、若 い農業者を育成していくことが重要	諏訪
	農業について、子供がやってみたくと思わせるような環境づくりが重要である。	北信
	家族で農業を支えていくことが、男女共同参画の観点や農業への思いを若い世代に伝えてい くという観点からも重要	諏訪
	今後の農業は、大型化するのではなく、欧州で主流の家族経営のスタイルを中心とするべき である。企業の参入には反対である。企業は利潤を追求するのみ。農業というものは、生活そ のものという考え方を前提に議論するべきである。	木曽
	若者が就農し、生活できる基盤の整備に取り組むべき。	松本
	農業は、多くのセールスポイントを一つに結び付ける重要な要であるため、計画における位置 付けを見直すべき。	松本
	TPPについて、現状の流通システムや生産システムを考えると、このまま取り入れると農業人 口が大きく減少するなど大きなダメージを受ける。	佐久
	TPP、遊休農地の活用、新規就農の確保など行政の支援がないと農業は成り立たない。農 業政策は転換期にあるが、引き続き支援をお願いしたい。	諏訪
	農業に対する補助制度は一時的なものが多い。継続的な補助をお願いしたい。	諏訪
	農地を守るためには、減反はやめるべきである。減反をやめて農地を使えば、農地は守られ る筈である。	木曽
地域の実態に合った農業のあり方を皆で考える必要がある。	上小	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
農業	結果を出して積み重ね、新しいものをプラスして積み重ねていくことが農業の発展に通じる。	上小
	りんごの新しい化栽培技術の確立が必要	大北
	直売所・道の駅は生産者と消費者の交流の場、都市と農村の交流の場になり、地域の農業振興や活性化に役割を果たす。	上小
	小ロットでも店頭に並ぶことが重要で、直売所だけでなく都市部や観光に活用していかなければならない。	上小
	直売所に野菜を納入しているが、値段が安すぎる。直売所に野菜を納入する場合の価格を維持する組織が欲しい。	木曾
	農業のノウハウがある高齢者が作った作物を売ることができる場所が欲しい。	佐久
	農産物をただ出荷するのではなく、包装に生産地名や地図を入れるなどPRしてはどうか。	北信
	農産物の付加価値を高めるため、諏訪ブランドを一本化してはどうか。	諏訪
	温暖化により高冷地の特産物の生産に影響が出ている。農業においても環境対策の必要性が増している。	諏訪
	環境にやさしい農業への対応は、組織的に取り組むことが難しく、出荷に至るまでのハードルが高い。	諏訪
	次世代に農業を引き継ぐためには、食糧自給率を高め、持続的に儲かる農業の構築が必要。思い切った施策をお願いしたい。	諏訪
	地産地消で旬のものを集めることが必要	上小
	地産地消の意味はお金ではないところにある。その地域の農業を支え、農業とともに生きていけるセーフティネットを市民の手でつくる地域づくりが必要	上小
	地産地消は食文化とともに残していかないと意味がない。旬の時期に旬のものを食べるという、市民の毎日の営みにより食文化が守られる。	上小
	高齢者等の協力により、食の文化を継承していくことに力を入れて欲しい。	諏訪
	国土を保全し食を守ることに加え、高齢になっても元気で働ける場を提供してくれるといった農業の役割への認識を高め、6次産業化、学校給食における地産地消などを更に進めて欲しい。	諏訪
	農業の6次産業化のためには、農産物に付加価値をつけ、いかに売ることが課題だが、高齢化が支障となっている。	諏訪
	空き農地が多くあるので、高齢者や仕事のない若者への就業支援に活用してはどうか。	飯伊
	農業でも他産業と同じ収入が得られるような政策が必要	飯伊
	地産地消に取り組む市場の開催を推進して欲しい。	松本
	農業用の各水利施設の老朽化に伴う更新、畑地かんがい施設の更新が必要である。	松本
	食料供給力を強化するため、大区画ほ場整備(再整備)を進め、生産性の向上を図る取組が必要	松本
	農業に関心を持つ県外者を、地元の農協等で受け入れる体勢がない。	長野
農業生産法人の設立を試みる人たちと農業協同組合との調整がうまくいっていない。	長野	
中山間地における農業従事者の高齢化が進んでおり、若い担い手の確保が課題	長野	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
農業	女性の力を農業に活用するための取り組みが必要	長野
	農業は経験のない人が参入するには困難が多く、定着も難しい。若い担い手を確保するには、農家の子どもが農業を継続できるように支援することが一つの方策	長野
	農業従事者の高齢化や後継者不足が問題	長野
	農業生産額を上げるには販売農家を増やすことが大事だが、そのためには所得を増やすことが必要	長野
	食品加工など、農業者と商工業者との連携の推進が必要	長野
	農業の6次産業化への支援が必要	長野
	東京のあるデパートでは青森産のリンゴしか陳列されていなかったため、長野県のリンゴのPR方法を考えて欲しい。	長野
	「スイーツ」「ワイン」「シードル」等が開発・販売されているが、付加価値の高い産業構造になっていない。農業団体・商工団体・行政が連携して「信州スイーツプロジェクト」を立ち上げ、スイーツの研究・開発を行ってはどうか。	長野
林業・木材産業	木を伐って、植えて育てて一人前にして、また伐って循環させるというシステムが山を育てるために必要	上小
	間伐材をチップ材やバイオマス燃料などとして活用する方法を検討して欲しい。	木曽
	都会から人を呼び寄せて山で働く場をつくったらどうか。	上小
	山を育てるにはしばらくは行政の支援が必要だが、いつかは自立した山づくりができれば良い。	上小
	木材の価格は、過去50年間で最も安くなっている。このため、山林所有者の経営意欲がなくなってきた。一方で、森林保全に対する国民の期待は高い。こうした中で、森林を維持・管理していくためには、林道の整備が必要である。森林税を活用して、問題の解決にあたって欲しい。	木曽
	信州型エコ住宅・環の住まい整備推進事業を見直し、地元産資材の活用が増えるようなシステムの構築をお願いしたい。	諏訪
	林業振興のため、建築資材等にはその地域産の木材を活用されたい。	飯伊
	間伐材を加工する施設数が少ないため、供給体制の整備が必要	長野
	木材搬出経費の低コスト化が必要	長野
	林業で働く場所を確保する必要がある。	長野
建設業	公共建築物への地域材の利用を促進するため、流通加工対策に取り組む必要がある。	長野
	地域の木材を地域で使用する意識を高める必要がある。	長野
	建設業は地域経済と雇用を支えているが、建設投資の減少や価格競争の激化、資材の価格高騰等により、厳しい経営環境にある。生産性を向上させ、成長力を確保するために、経営力や人材育成強化への支援、入札契約制度改革などにより、建設業の活力回復の推進を図る施策が必要	大北
緊急時に十分な対応ができるよう、建設関連企業の体力を失わせないための取組(必要な公共事業の実施等)が必要	松本	
木材の地元消費を増やすため、地域材を使った木造建築を得意とする設計士の養成など、大工、建具、製材技術の復活に取り組むべき。	松本	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
建設業	災害復旧には地元の建設業者が不可欠であるため、建設業者を育成する入札制度が必要では。	飯伊
	建設業界は赤字経営や高齢化により疲弊している。災害発生時や降雪時における建設業の貢献度をもっとPRすることが必要	長野
	県と建設業界による「地域を支える建設業」検討会議を頻繁に開催し、より良い入札制度を目指すことが必要	長野
商業・サービス業	地域にとって非常に心配なことは、中心市街地の活力低下と観光地利用数の伸び悩み。この2つの問題を解決するカギは人づくり。店屋で商売をする経験を積んでもらうことで、自分も商売人になろうと思うような子どもを地域に根付かせ、更に大手資本に対抗する戦略を考えていくことが必要	上伊那
	商店街の魅力は近隣の特色あるいいものが集まっていること。特色のない商店街はがんばっても助けられない。	上小
	買い物弱者対策に更に力を入れるべき。	諏訪
	高齢化社会の中で、買い物弱者の問題が更に深刻になる前に対応をお願いしたい。	諏訪
	買い物弱者対策のため、高齢者が積極的に買物に出掛けることができる環境整備、きめ細かい交通網の整備、「共助の心」の啓蒙、民間事業者の積極的な参画を促すことが必要では。	飯伊
	買い物弱者対策として、交通事業者、送迎を行う商店、運転ボランティア等に対し、補助を行って欲しい。	松本
	買い物難民対策には、生鮮三品業者の育成・支援、デマンド交通体系の整備等広範な分野での対応が必要であるため、モデル地区を設定し、関係部局で構成するチームにより対応してはどうか。	松本
商店街及び中小企業活性化のための支援に取り組むべき。(商店街、商業者が元気になるようなアドバイス、支援を)	松本	
ブランド	人を呼ぶためには、有名になることが必要であり、それが地域振興にもつながる。	佐久
	観光産業関係者以外は観光に興味を持つ人が少ないため、地域の魅力を発見・認識し、それをどのように経済的な価値に転換できるか、地域で合意形成が必要	長野
	「長野」・「信州」の知名度やブランド力の低迷を感じるため、底上げを図って欲しい。	長野
雇用・労働環境	技能五輪終了後も、若手技術者、特に課題解決能力のある技術者の育成の継続をお願いしたい。	諏訪
	人材を大切にすることが経済の活性化につながる。地元の雇用の安定や、特に地域の若者の就職支援に力を注いで欲しい。	諏訪
	リニア中央新幹線の開通を見据え、若者に魅力のある就労の場と生活基盤を築ける政策が必要	飯伊
	新卒者と中小企業のマッチングを図るべき。	諏訪
	Iターン者を雇用する団体、企業への大胆な助成が必要	飯伊
	雇用創出のため、様々な産業の創出及び遊休農地利用による支援を行うべき。	松本